



♪CONTENTS♪

- 木杣会の活動について
- 京都丹州もくもくフェスタ
- 長岡京市環境フェア・伏見城まつり
- 北山杉・里山コンサート
- ライフ・アンド・フォレストの案内
- 新たな事務局スタッフの紹介
- 連載（森林・林業小話 23）
- 編集後記

No.35 (2015.12.9 発行)

★木杣会の活動★

今号では、11月20日に行った見学会とともに、今年から活動を始めた「木杣会」(代表:能戸謙介さん)のことを紹介します。

木杣会は、京都府建築士会に所属する建築士と林業家などの有志約10人で組織された自主的な集まりです。構成員の多くの方は建築設計者で、地域産の木材利用に関心を寄せる中で百年の会と交流を持つようになりました。11月20日の見学会では、前回「森の人」で紹介した宇治市の(株)藤田木材、木杣会の活動のひとつである八幡市の男山団地、京丹波町の(有)日新製材所などへ行ってきました。

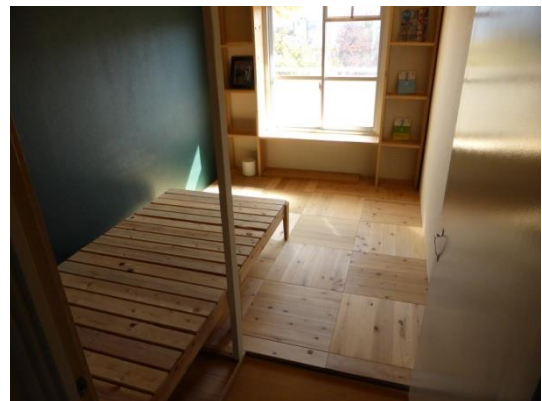
藤田木材は、燻煙熱処理による木材の加工が特徴です。囲炉裏の煙でいぶされた木材はクセが少ないとの評価があるように、木材の燻煙処理は旧来とは違う方式で欠点を減らすことができると言われています。乾燥工程に10日ほどかかりますし、大量生産はできませんが、特殊な寸法にも対応してもらえます。こだわりの住宅設計を手掛ける建築士の方にとっては、部材を選択する際の候補になり得ると思いました。

男山団地では、UR都市機構の賃貸物件の一角に住民の集まれるコミュニティスペースが設置されています。オープンは2013年11月16日で、「だんだんテラス」と呼ばれ、関西大学の学生さんが365日常駐しています。朝はラジオ体操でスタートし、朝市の野菜販売、昼間の文化講座、夜のだんだんバーなどがあり、いつでも地域住民の方が集う場所になっています。毎月「だんだん通信」(11,000部)が発行されていて、どんな活動をしているかがわかります。同団地の賃貸物件は、ある程度は大幅なりノベーションが可能で、壁や床などに木材を使えます。「DIY」と「Petit DIY」の2タイプがあり、両方とも退去時の原状回復が不要で、前者は建物の躯体以外の大規模な改修が可能です。木杣会のメンバーからは、「ダンチ木質化計画」と称するりノベーション計画が提案されています。収納スペースに作り付けの構造を専門家が設置し、棚板を入

居者が自由な位置に取り付ける手法で、地域産木材の使用が想定されています。

日新製材所は、元々太秦で国産材の製材加工をしていたのですが、亀岡へ移転してロシア材を中心に加工するようになりました。この亀岡工場はおそらく京都府下で最大規模です。2010年頃に関税の関係でロシア材が輸入しにくくなるとの観測から、国産材も再び手がけるようになりました。そこで、国の事業を活用して京丹波町の工場へ製材機械を新たに導入。2014年7月から稼働を始め、着実に加工量を増やしています。工場のラインはすべて全自動で制御され、丸太から製材品になるまで人手はほとんどかかりません。高効率の生産体制のおかげで、規格品の供給が十分できそうな印象でした。

木杣会の活動は端緒についたばかりで、これからのように当会と関わるかは未定です。しかし、木杣会の趣旨や方向性は大いに賛同するところですから、これからの活動の発展と当会との協働に期待しています。(野瀬)



男山団地のモデルルーム



日新製材所の和知工場

★京都丹州もくもくフェスタが開催されました★

10月10日(土)に京都府綾部市にある京都木材加工センターで「第3回 京都丹州もくもくフェスタ」が開催されました。イベントでは、「木」に関わるブースが大集合。木のおもちゃ作りのワークショップや木製遊具の展示、木工作品の販売など素敵なコーナーがずらりと並んでいました。当会も木の積み木の体験ワークショップを行いました。たくさんのお子様さんに喜んでもらって嬉しかったです。他にも、アウトドアコーナーや大型の林業機械の展示・デモ実演などもあり、会場はすごく賑やかでした。

同日は丹州木材市場の記念市にもあたって、セリの様子を間近で見学できました。どの木がいくらでどなたが購入し、どのような使われ方をされるのか…。原木ごとにこれから違うストーリーをたどることになるのだと思うと、なんだか競り落とされる1本1本が愛おしく感じました。

私は今年で3回目のイベント参加となりました。終わってみると毎年感じるものが異なることに気が付き、木の魅力はとも奥深いものだと改めて思いました。(豊濱)



積み木で遊んでいる子どもたち



記念市でのセリの様子

※長岡京市環境フェアに参加しました※



天井まで達した積み木



屋外に展示してあった薪ストーブ

今年も、10月3日(土)に開かれた第7回長岡用紙環境フェアにスタッフ2人が参加しました。当日はすばらしい秋晴れに恵まれ、会場の長岡京市立中央公民館2階は、窓を全開にしても寒くありませんでした。市内での広報がうまく進められたからか、9時30分の開始から親子連れや友だち同士の小学生など途切れなく会場に来てくれました。

昨年と同様に中には天井に到達するまで積み上げた人がいたりして、スタッフがアドバイスをしなくても自由な発想で組み立てていました。たくさんの方が来て下さったおかげで、あまり時間的に余裕がなくて他団体と交流する機会が持てませんでしたが、外では薪ストーブの展示などがあり、環境意識を高める一助になったと思います。(前田)

◇伏見城まつり 2015に参加しました◇

11月1日(日)に、伏見桃山城前広場で開かれたイベントに招かれ、参加してきました。広大な敷地にいろんなブースが出展していました。今回は、初めての試みとして三角形の端材が200個ほど入手できたこともあり、紙やすりを用意して親子づれの方に磨いてもらうことにしました。たくさんのお子様さんが遊んでくれたおかげで大盛況となり、スタッフは休む暇もないほどでした。(前田)

北山杉・里山コンサートを開催しました！！

一昨年、昨年に続いて、10月18日（日）に京都市右京区の杉林内で、北山杉・里山コンサートを開催しました。今年も150人以上の方々が来場して下さいました。

これまでとは違って、今年は3人組のスペシャルセッションによるジャズの演奏を聞きました。天気が良かったこともあって、あまり小川のせせらぎ音はしませんでした。北山杉林の雰囲気にあった選曲で、心地よいひと時を過ごすことができました。休憩時には職人さんの指導のもと、参加者が道具を使って木に登るレクチャーを受けました。木に登るだけでもたいへんなのに、枝打ちもする職人さんの技能には感心しました。

なお、前日（10月17日）には会場の設営をサポートし、昼食には本格的なちゃんこをいただきました。大学の相撲部出身の方が調理して下さいました。濃いめの味付けがごはんとはぴったり合っていて、食が進むことを実感しました。食事をとった場所は会場にも歩いていける距離にあり、滋賀県から移築した古民家で、薪ストーブや囲炉裏、現役で使っている「おくどさん」があり、とても快適な時間を過ごすことができました。（野瀬）



丸太に座ってジャズを鑑賞する参加者



職人さんに木登りを習っている参加者

今年もライフ・アンド・フォレスト（1月10日）を開催します。

今年で5回目をむかえることになったライフ・アンド・フォレストは、来春1月10日に「夫婦林業」をメインテーマにかかげてキャンパスプラザ京都で開催します。

以前から典型的な男性社会といわれてきた林業や木材業界において、女性の役割が注目され始めています。男女それぞれ得意分野や発想があるはずで、それらを十分に活かす働き方や役割分担にスポットライトが当てられています。

今回は、経営そして暮らしの最小単位ともいえる「夫婦」で林業や木材業に携わり、新しい発想でチャレンジをしている3組の素敵なお夫婦のお話を伺うことにしました。活動報告やパネルディスカッションを通じて、今後の林業界のあり方や人のはたらき方、地方で暮らすライフスタイルについてのヒントを受け取りたいと思います。

<概要>

◎日時：2016年1月10日（日）

13：00 開場

13：30 開会

13：40 活動報告（第1部）

16：10 パネルディスカッション（第2部）

◎場所：キャンパスプラザ京都 第2講義室

住所：京都市下京区西洞院通塩小路下ル

◎パネリスト

伊東昌樹・禾織里さん（株式会社いとう）

中平武・真菜香さん（中平林業）

野地伸卓・麻貴さん（野地木材工業株式会社）

◎問い合わせ

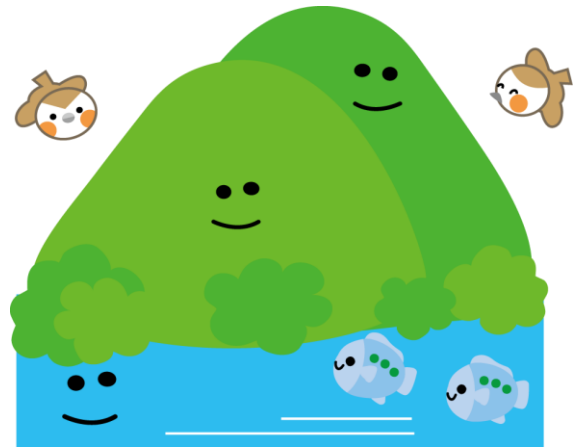
FAX: 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com（野瀬）

新たに事務局員が加わりました！

こんにちは。このたび事務局員として百年の会に参加させていただくことになった瀬戸山巧（せとやま たくみ）と申します。普段は京都大学工学部物理工学科の一回生をしています。「山仕事サークル杉良太郎」に所属しており、その縁で事務局に参加させていただくことになりました。

工学部だというによく驚かれますが、子どものころ祖父の山でよく遊んでいたこともあり、僕にとって山は身近な存在なのです。まだまだ未熟者ですがよろしくお願いします。（瀬戸山）



❖連載❖（森林・林業小話 23）

日本は木材の燃料利用が少なすぎる

前回、日本の木炭・薪の生産量を示しましたが、世界的にみてどうなのかはイメージしにくいと思います。やや古いですが、国連食糧農業機関（FAO）の統計をもとに2008年時点の国別の1人当たり燃材生産量を比べてみました。すると、最大はブータンの約6.8トン/年で、リベリア、ギニアと続き、世界平均は約0.27トン/年です。日本は下から4番目のわずか0.75キログラム/年で、それ以下はアゼルバイジャン、イスラエル、台湾のみとなっています。なぜここまで少なくなった

かはともかく、燃料革命が大きな転換期だったことは間違いありません。戦後の木炭・薪生産のピークはそれぞれ約217万トン（1957年）、約2,179万層積立方メートル（1948年）と両方とも200分の1以下になった今ではまったく考えられない水準です。一方で、1957年には薪炭用に約2,000万立方メートルの素材生産が計上されており、相当量の広葉樹二次材が伐採されていたと考えられます。資源の枯渇が心配されるほど伐りすぎるのも問題です。〈野瀬〉

京都・森と住まい百年の会
会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO法人京都・森と住まい百年の会をご紹介します。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

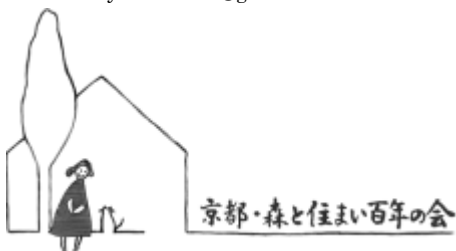
ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



編集後記

3号続けて野瀬が編集作業を担当しています。少しずつ改良をしていくつもりです。



本紙は、平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原 Grant」の助成を受けて発行します。